

.....

おわりに

.....

私たちにとってラーバース先生 (Dr.Ferre Laevers) との出会いは幸運であると同時に感動的な出来事でした。なぜなら、日本においては一人ひとりの良さと可能性を求め、子どもたちの遊びを中心とした伝統的な保育方法は誇りであり、最も大切な保育理念です。この保育理念というか保育方法の考えを壊すことなく、より良く生かしながら保育の質を高めていくにはどのように考えていけばよいであろうか、という研究に取り組んでいるなかでラーバース先生に出会ったからです。ラーバース先生の開発された保育の質に関わる評価方法は、保育プロセスの質尺度の開発として、これまでの保育評価の手法と異なり、子どもの側からの視点で検討する尺度であり、保育者の質的向上や環境の改善にも具体的に向けられたもので、日本が伝統的に行なってきた実践過程の評価の在り方 (園内研究) に類似するというか、同じ地平を感じさせるものでした。また、多くの異なった文化や保育制度を持つ国々でも採用され、その有効性が報告されていることは、私たちにとって大きな励みになりました。

ご承知の通り、日本における保育理念は机上の論理から生まれたものではなく、日々子どもたちの遊ぶ姿の中に何が育っているのか、育とうとしているのかを保育の過程を通して読み取り実践を繰り返し積み重ねたところから生み出されてきたものです。日本の多くの園では、この保育における実践過程の質を保つために諸外国では見られない独自の方法として園内研究会が日常的に行なわれています。そこでは保育の質をより良く高めていくということで必然的に保育にかかわる様々な評価が行なわれていますが、通常、子どもに対する評価と保育実践に対する評価を組み合わせた形で反省、省察と評価を一体化させた話し合いを中心に行なわれています。しかし、「評価」、「評定」というと、チェックリストを想起した機械的な処理のイメージがあるのか、日本の保育の実践の場ではあまり好まれている言葉ではないようです。したがって、園内研究会では、基本的な子どもへの視点や「評価」、「評定」は一人ひとりの保育者の心の中にあることを前提にしていることが多く、そのことで時に話し合いの焦点が定まらなかったり、リーダーの一方的な話し合いになったり、単なる話し合いのみに終わってしまうこともあるようで、悩んでいる園も多くあると聞いています。

こうした悩みと葛藤に一つの道を開いてくれたのが、ラーバース先生の提唱されている保育プロセスの質尺度の評価法だったのです。ラーバース先生の保育哲学は、実践から学び、その学びを実践に還す、さらに常に実践者と同じ目線で一緒に考え合うことを最も大切にされていることです。この保育哲学は、日本の伝統的な保育理念・方法に合致して違和感なく受け入れることができました。子どもたちの姿を「安心度」と「夢中度」から一人ひとりの保育者が保育プロセスの質としていったん評定し合い、その評定した子どもの姿からカンファレンスを始めるという考えに一度ふれてみてください。「評価」、「評定」という意味が従来考えていたことと全く違うことを体感できると思います。ラーバース先生が日本滞在中、幼稚園や保育園を見学される際にご一緒させていただく機会があり、先生の人柄というか保育哲学の一端に触れさせていただく機会に恵まれました。先生の子どもへの視線と姿勢は、柔らかく、優しく、そして鋭く、初めて出会った子どもたちの写真が一コマ一コマに一人ひとりの物語が語られているように映し出されて見え、感動しました (本誌掲載の写真はラーバース先生とジュ

リア・ムーン先生が撮影されたものです)。

最後に、このブックレットは、ラーバース先生からカンファレンスを通して直接ご教授していただいた内容を中心に仲間と何回も検討し、子どもを中心とした日本の伝統的な保育プロセスを壊さない園内研究会の方法の一つを提案したつもりです。その方法は、ラーバース先生の保育哲学は受け継いでいますが、評価の仕方や内容を含め、活用方法は似て非なるものも取り入れ再構成されていると考えて良いと思います。ゆえに、完成、完結したものではなく、私たちの一番の願いは、このブックレットを通してみなさんの園に合った独自の園内研究が豊かになったり、新たに作り出すことにお役に立てれば幸いだと考えています。園内研究会の方法は、100の園があれば100通りの方法があってもよいのではと考えているからです。このブックレットを実際に体感されて様々なご意見、ご指導が得られることを期待しています。

プロジェクト代表者 小田 豊

<補足情報 本ブックレット添付DVDの評定に関して>

DVDに記してあります各場面については、評定に正解はありません。場面のどこをみたからどのように感じたのかと言う話し合いこそ重要です。そしてこのDVDはご自分の園で行なうためのイメージをもっていただくためのものであり、各園がご自分の実践において行なわれることが最も大切です。しかし、評定スケールとしての信頼性を保障することも、紹介し市販するにあたっては重要と考え、本DVDは、プロジェクトメンバー間での評定の一致率が高く、またメンバー以外の協力者においても保育経験者の評定が±1のなかに入る割合が高い場面を選択しました。

さらに、SICSという名前で紹介される以上、同じ視点の保障が必要と言うラーバース教授の提案により、オリジナル版作成者であるラーバース教授ならびにベルギーでのリューベン大学経験教育研究所のスタッフにもご協力いただき、日本版の本DVDについてベルギーのメンバーにも評定をいただき、日本のプロジェクトメンバーと評定の相違についての意見交流もいたしました。その結果、21場面のうち、17場面（11場面では完全に一致、6場面では0.5のみの相違）では、独立評定にもかかわらず、評定が一致いたしました（残りは1ポイントの相違が3場面、それ以上が1場面です）。本方法を使用して、保育の中で子どもの夢中度を捉える感覚には、国や文化を越えての一定の信頼性があることも明らかとなりました。また評定の相違は、保育において使用する物や活動のあり方という保育文化の相違によると考えられること、子どもが他者の活動を見ているという行為に対する評定の相違でありました。この点も、オリジナルSICSと日本版の相違ならびに信頼性に関する点として補足情報として提供させていただきますとともに、この評定と対話に参加して下さったベルギーでのスタッフの方々にも心より感謝申し上げます。

謝 辞 ・ 付 記

本ブックレットの基盤となった研究は、平成19-21年度厚生労働省科学研究費（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究」（H19-政策一般-016）によるものです。この研究推進のために助成をくださった厚生労働省の皆様に感謝申し上げます。また本DVD作成ならびに公刊にあたり許可をいただきました西南学院早緑子供の園および社会福祉法人 種の会 はっと保育園の先生、保護者等関係者の方々に御礼を申し上げます。

また本ブックレット刊行にあたりましては、オリジナルSICSの著者であるフェール・ラーバース（Dr.Ferre Laevers）教授ならびにLeuven Involvement Scaleビデオ版權をもつCEGO Publishersからの日本語での転載使用承諾に基づき、発刊されています。リューベン大学経験教育研究所（Research Center for Experiential Education, Leuven University）およびKind en Gezinに御礼を申し上げます。なお、この日本語版においても本ブックレットおよびDVDについて本プロジェクトならびにラーバース教授とCEGOの許可なく無断転載複写はお断りします。また本内容に関するお問い合わせ等は、下記Eメールアドレスまでお願いいたします。

「保育プロセスの質」研究プロジェクト／ブックレットおよびDVD作成者一覧

秋田喜代美（東京大学大学院）

芦田 宏（兵庫県立大学）

鈴木正敏（兵庫教育大学）

門田理世（西南学院大学）

野口隆子（十文字学園女子大学）

箕輪潤子（川村学園女子大学）

淀川裕美（東京大学大学院）

小田 豊（国立特別支援教育総合研究所）

本書に関するお問い合わせ

E-mail:kakita@p.u-tokyo.ac.jp

子どもの経験から振り返る保育プロセス

—明日のより良い保育のために—

発行日 平成22年 3月10日

作成者 「保育プロセスの質」研究プロジェクト 代表 小田 豊

製作・販売 幼児教育映像制作委員会

Tel 050-3356-1541 Fax(&Tel) 047-384-8611

E-mail: info@yescom.sakura.ne.jp

<http://www.yescom.sakura.ne.jp>

